

## 4 茂原商圏（商業中心都市）

### (1) 商圏の概要

表Ⅳ－４－１ 茂原商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	10	66.8%	192,391	128,583	計	9	63.3%	211,376	133,880
	茂原市		72.1%	93,028	67,073	茂原市		72.1%	93,028	67,073
	一宮町		59.2%	11,723	6,940	一宮町		59.2%	11,723	6,940
	睦沢町		70.1%	7,695	5,394	睦沢町		70.1%	7,695	5,394
	長生村		76.6%	14,589	11,175	長生村		76.6%	14,589	11,175
	白子町		72.8%	12,778	9,302	白子町		72.8%	12,778	9,302
	長柄町		71.0%	8,459	6,006	長柄町		71.0%	8,459	6,006
	長南町		80.9%	9,697	7,845	長南町		80.9%	9,697	7,845
	旧・夷隅町		60.6%	7,759	4,702	いすみ市		37.1%	42,033	15,594
	旧・岬町		36.6%	15,289	5,596	大多喜町		40.0%	11,374	4,550
	大多喜町		40.0%	11,374	4,550					
第2次 (10～30%未満)	計	3	20.3%	50,018	10,157	計	2	19.4%	29,689	5,746
	勝浦市		16.1%	21,774	3,506	勝浦市		16.1%	21,774	3,506
	旧・大原町		21.7%	20,329	4,411	御宿町		28.3%	7,915	2,240
	御宿町		28.3%	7,915	2,240					
第3次 (5～10%未満)	計	1	5.4%	49,777	2,688	計	1	5.4%	49,777	2,688
	大網白里町		5.4%	49,777	2,688	大網白里町		5.4%	49,777	2,688
合計		14	48.4%	292,186	141,428		12	48.9%	290,842	142,313

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

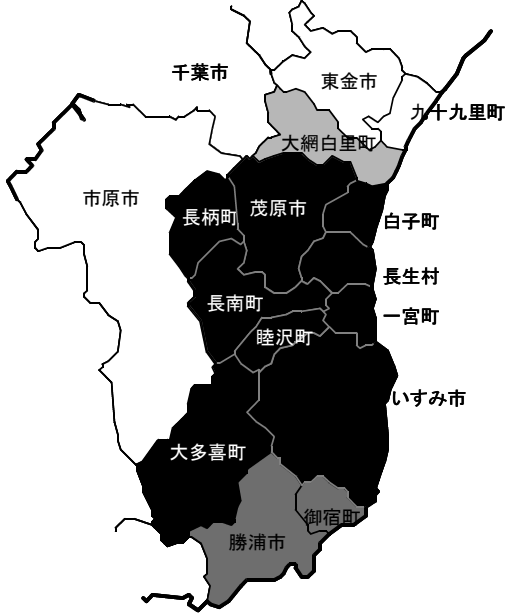
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○茂原商圏は、長生ブロックと夷隅ブロック一帯の3市8町1村から形成され、商圏人口は約29万人（茂原市人口の約3.1倍）、商圏からの吸引人口は約14万人（同約153%）、商圏内吸引率は48.9%となっている。

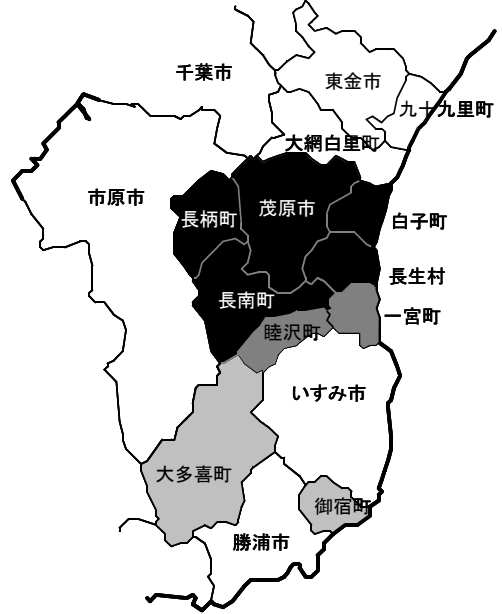
○第1次商圏は2市6町1村で吸引率の平均は63.3%、第2次商圏は1市1町で吸引率の平均は19.4%、第3次商圏は1町で吸引率は5.4%となっている。

図IV-4-1 茂原商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

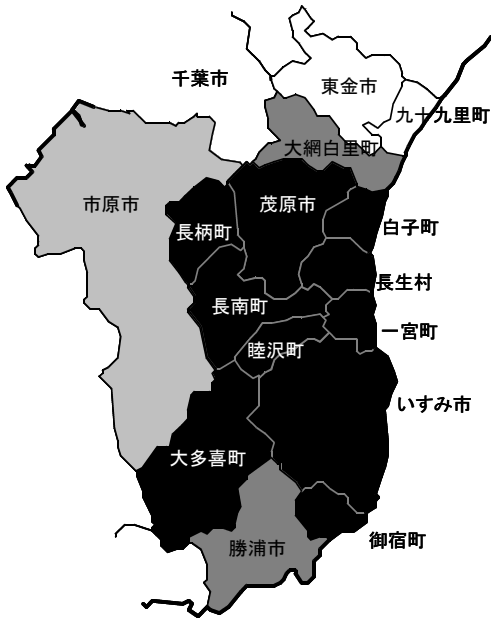
(衣料品)



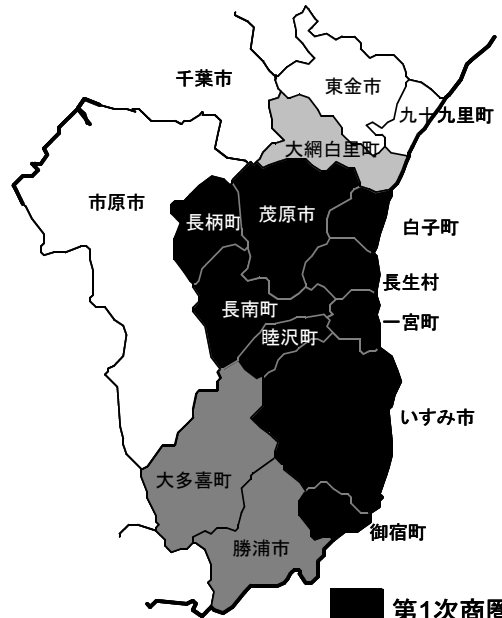
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



第1次商圏  
 第2次商圏  
 第3次商圏

## (2) 旧市町村区界での前回調査との比較

### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、1市9町1村であったうち、1町が第2次商圏へ移動したことから、1減して1市8町1村となった。
- ・第2次商圏は、1市1町であったが、1町が第1次商圏から入ったことから、1増して1市2町となった。
- ・第3次商圏に該当する市町村はなかったが、新たに1町が入った。
- ・商圏全体では、13市町村（2市10町1村）であったものが、1増して14市町村（2市11町1村）となった。

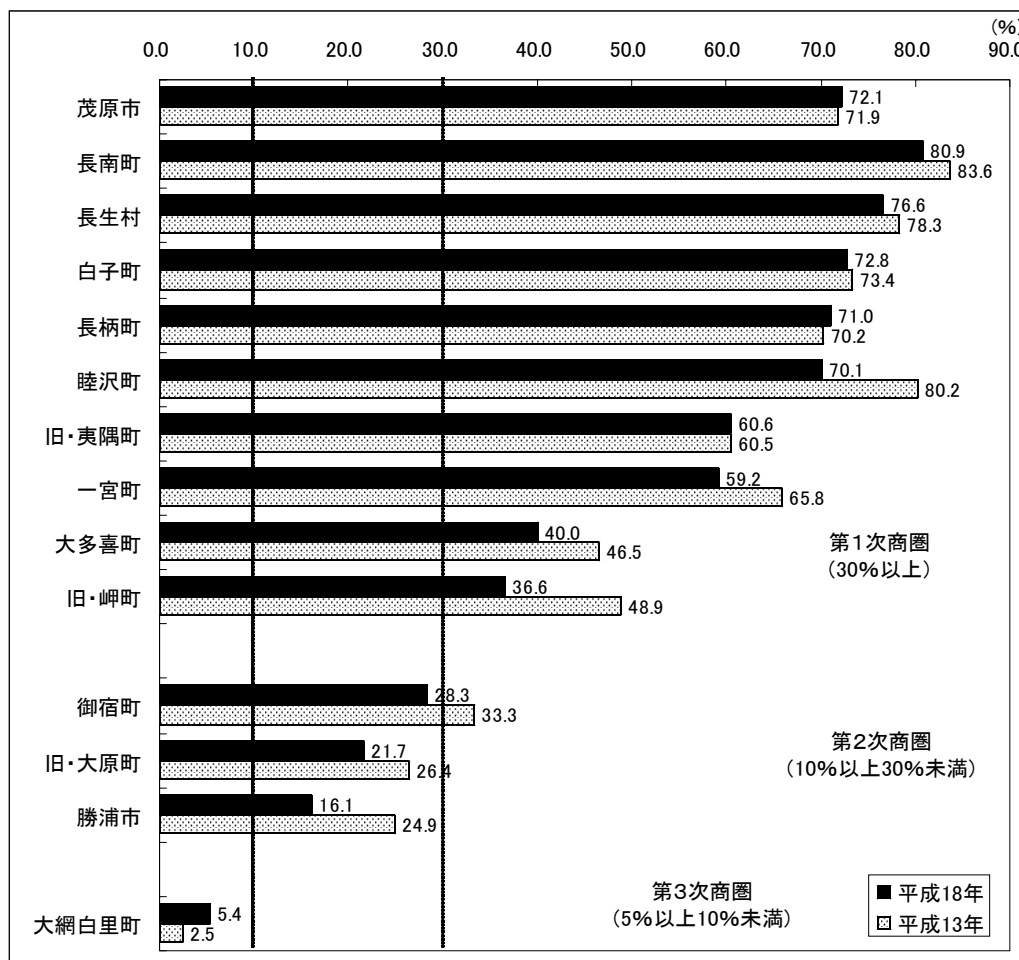
○商圏人口：前回調査時（245,951人）から増加して292,186人となった。（前回比+18.8%）

○商圏内吸引率：前回調査時（60.4%）から低下して48.4%となった。（前回比▲12ポイント）

○吸引人口：商圏人口は増えたものの吸引率が低下したことから、前回調査時（148,456人）から減少して141,428人となった。（前回比▲4.7%）

○吸引力：吸引人口が減少したことから、前回調査時（158.0%）から低下して152.0%となった。（前回比▲6ポイント）

図IV-4-2 茂原市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



### (3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

#### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では1市8町1村であるが、2町が合併により1市になったことから、1減して2市6町1村となった。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では1市2町であるが、1町が第1次商圏の2町と合併して第1次商圏に移動したため、1減して1市1町となった。
- ・第3次商圏は1町で変化はない。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では14市町村（2市11町1村）であるが、新市町村区界では2減して12市町村（3市8町1村）となった。前回調査時の13市町村（2市10町1村）との比較では1減となった。

↓

#### (現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

- 商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（245,951人）から増加して290,842人となった。（前回比+18.3%）
- 商圏内吸引率：前回（60.4%）から低下して48.9%となった。（前回比▲11ポイント）
- 吸引人口：商圏人口は増えたものの吸引率が低下したことから、前回（148,456人）から減少して142,313人となった。（前回比▲4.1%）
- 吸引力：吸引人口が減少したことから、前回（158.0%）から低下して153.0%となった。（前回比▲5ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における茂原商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－４－２に示す。

表Ⅳ－４－２ 茂原商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 11		計 10			計 9	
	茂原市		茂原市			茂原市	
	一宮町		一宮町			一宮町	
	睦沢町		睦沢町			睦沢町	
	長生村		長生村			長生村	
	白子町		白子町			白子町	
	長柄町		長柄町			長柄町	
	長南町		長南町			長南町	
	大多喜町		旧・夷隅町		○(いすみ市)	いすみ市	☆
	旧・夷隅町		旧・岬町		○(いすみ市)	大多喜町	
	※ 御宿町	第2次へ	大多喜町				
	旧・岬町						
第2次 (10～30%未満)	計 2		計 3			計 2	
	勝浦市		勝浦市			勝浦市	
	旧・大原町		※ 旧・大原町		○(いすみ市)	※ 御宿町	第1次から
			※ 御宿町	第1次から			
第3次 (5～10%未満)	計 0		計 1			計 1	
			※ 大網白里町	新規		※ 大網白里町	新規
合計	13		14			12	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における茂原商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－４－３に示す。

表Ⅳ－４－３ 茂原商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(現・市町村区界)	
		市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 5		計 5	
		※ 茂原市		※ 茂原市	
		睦沢町	第2次へ	睦沢町	
		長生村		白子町	第2次から
	長柄町		長柄町		
	長南町		長南町		
第2次 (10～30%未満)	計 3		計 2		
	※ 一宮町		※ 一宮町		
	白子町	第1次へ	睦沢町	第1次から	
	※ 旧・夷隅町	×(いすみ市)			
第3次 (5～10%未満)	計 1		計 2		
	※ 旧・岬町	×(いすみ市)	※ 大多喜町	新規	
			※ 御宿町	新規	
合計		9		9	
飲食	第1次 (30%以上)	計 10		計 10	
		茂原市		茂原市	
		一宮町		一宮町	
		睦沢町		睦沢町	
	長生村		長生村		
	白子町		白子町		
	長柄町		長柄町		
	長南町		長南町		
	大多喜町		いすみ市	☆	
	旧・夷隅町	○(いすみ市)	大多喜町		
	旧・岬町	○(いすみ市)	御宿町	第2次から	
第2次 (10～30%未満)	計 3		計 2		
	※ 勝浦市		※ 勝浦市		
	御宿町	第1次へ	大網白里町	第3次から	
	※ 旧・大原町	○(いすみ市)			
第3次 (5～10%未満)	計 1		計 1		
	※ 大網白里町	第2次へ	※ 市原市	新規	
合計		14		13	
贈答品	第1次 (30%以上)	計 9		計 9	
		茂原市		茂原市	
		一宮町		一宮町	
		睦沢町		睦沢町	
	長生村		長生村		
	白子町		白子町		
	長柄町		長柄町		
	長南町		長南町		
	旧・夷隅町	○(いすみ市)	いすみ市	☆	
	旧・岬町	○(いすみ市)	※ 御宿町	第2次から	
第2次 (10～30%未満)	計 4		計 2		
	※ 勝浦市		※ 勝浦市		
	大多喜町		大多喜町		
	※ 御宿町	第1次へ			
	※ 旧・大原町	○(いすみ市)			
第3次 (5～10%未満)	計 0		計 1		
			※ 大網白里町	新規	
合計		13		12	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村  
 ○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内  
 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下  
 ×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

## 5 旭商圈（商業中心都市）

### (1) 商圈の概要

表Ⅳ－５－１ 旭商圈

商圈 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圈人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圈人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	4	81.9%	70,292	57,601	計	1	83.5%	70,453	58,828
	旧・旭市		81.9%	40,403	33,090	旭市		83.5%	70,453	58,828
	旧・海上町		82.8%	11,128	9,214					
	旧・飯岡町		82.0%	10,855	8,901					
	旧・干潟町		80.9%	7,906	6,396					
第2次 (10～30%未満)	計	5	16.6%	142,614	23,633	計	3	16.5%	131,600	21,730
	銚子市		15.2%	73,864	11,227	銚子市		15.8%	73,864	11,671
	旧・八日市場市		14.4%	31,962	4,603	匝瑳市		14.8%	41,790	6,185
	旧・野栄町		15.9%	9,804	1,559	東庄町		24.3%	15,946	3,875
	旧・山田町		21.9%	11,038	2,417					
	東庄町		24.0%	15,946	3,827					
第3次 (5～10%未満)	計	0	-	-	-	計	1	5.7%	86,449	4,928
						香取市		5.7%	86,449	4,928
合計		9	38.2%	212,906	81,234		5	29.6%	288,502	85,486

注1) 吸引率=吸引人口÷商圈人口×100

注2) 各商圈内の最上段吸引率は圈内加重平均(圈内吸引人口計÷圈内商圈人口計×100)

注3) 市町村・商圈人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

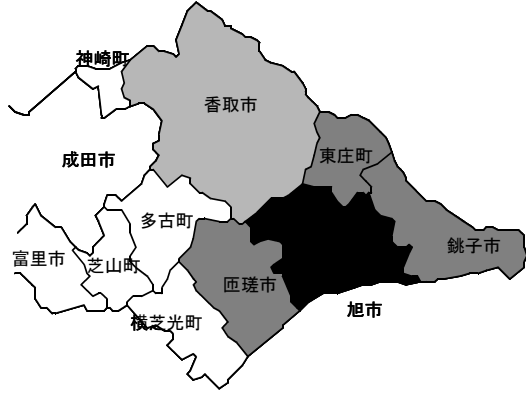
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○旭商圈は、海匝ブロックと香取ブロックの一部を取り込んだ4市1町から形成され、商圈人口は約29万人(旭市人口の約4.1倍)、商圈からの吸引人口は約9万人(同約121%)、商圈内吸引率は29.6%となっている。

○第1次商圈は旭市1市で吸引率(地元購買率)は83.5%、第2次商圈は2市1町で吸引率の平均は16.5%、第3次商圈は1市で吸引率は5.7%となっている。

図IV-5-1 旭商圈（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

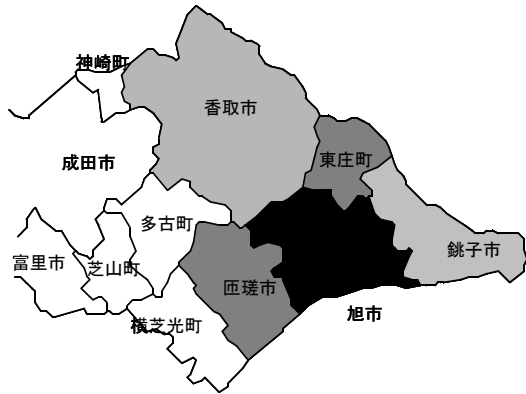
（衣料品）



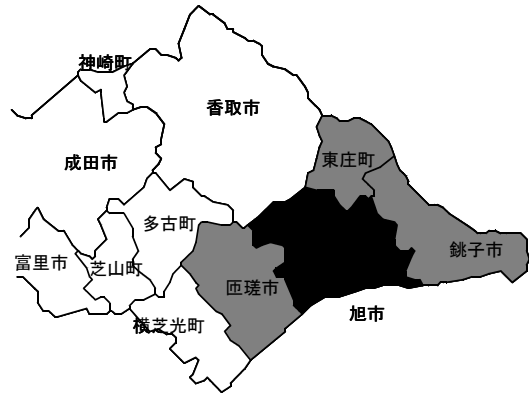
（食料品）



（飲食）



（贈答品）





(2)旧市町村区界（旧・旭市）での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、1市4町であったうち、1町が第2次商圏に移動したことから、1減して1市3町となった。
- ・第2次商圏は、2市2町であったが、第1次商圏から1町が入ったため、1増して2市3町となった。
- ・第3次商圏は1町であったが、その1町が圏外へ出たため、該当市町村はなくなった。
- ・商圏全体では、10市町（3市7町）であったものが、1減して9市町（3市6町）となった。

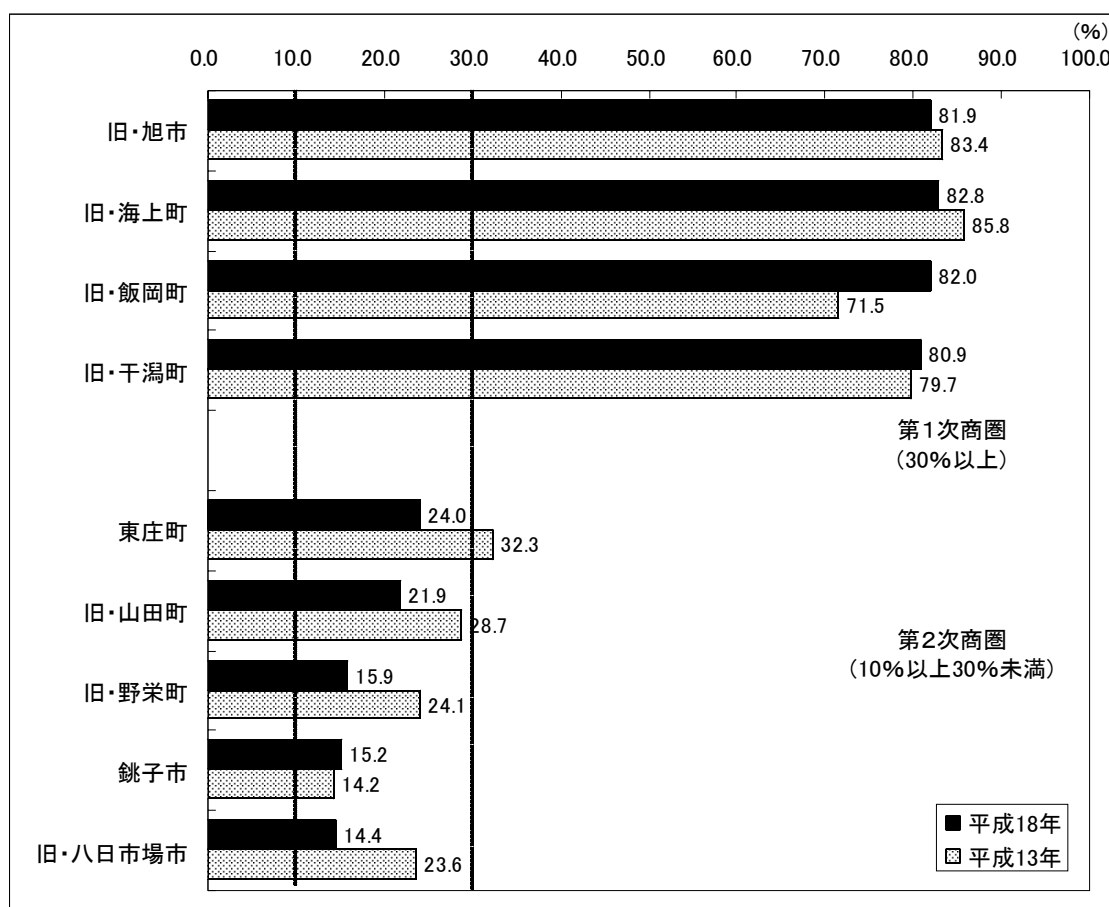
○商圏人口：前回調査時（232,485人）から減少して212,906人となった。（前回比▲8.4%）

○商圏内吸引率：前回調査時（38.2%）と同様、38.2%となっている。

○吸引人口：商圏人口が減少したことから、前回調査時（88,799人）から減少して81,234人となった。（前回比▲8.5%）

○吸引力：吸引人口が減少したことから、前回調査時（215.9%）から低下して201.1%となった。（前回比▲15ポイント）

図IV-5-2 旧・旭市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



### (3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

#### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では1市3町であるが、その全てが合併して1市となったことから、3減して1市となった。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では2市3町であるが、1市1町が合併により1市となり、また、1町は合併後（合併新市が）第3次商圏に入ったことから、2減して2市1町となった。
- ・第3次商圏に該当する市町村はなかったが、第2次商圏の1町が合併した新市が新たに入った。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では9市町（3市6町）であるが、新市町村区界では4減して5市町（4市1町）となった。前回調査時の10市町（3市7町）との比較では5減となった。

↓

#### (現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

- 商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（232,485人）から増加して288,502人となった。（前回比+24.1%）
- 商圏内吸引率：前回（38.2%）から低下して29.6%となった。（前回比▲9ポイント）
- 吸引人口：商圏人口は増えたものの吸引率が低下したことから、前回（88,799人）から減少して85,486人となった。（前回比▲3.7%）
- 吸引力：吸引人口が減少し、且つ、自市人口が合併により大きく増加（+71.3%）したことから、前回（215.9%）から大きく低下して121.3%となった。（前回比▲95ポイント）

### (4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における旭商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-5-2に示す。

表IV-5-2 旭商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(旧・旭市)		平成18年(旧・市町村区界)		平成18年(現市区界)		
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 5		計 4			計 1	
	旧・旭市		旧・旭市		○(旭市)	旭市	☆
	旧・海上町		旧・海上町		○(旭市)		
	旧・飯岡町		旧・飯岡町		○(旭市)		
	旧・干潟町		旧・干潟町		○(旭市)		
	※ 東庄町	第2次へ					
第2次 (10~30%未満)	計 4		計 5			計 3	
	銚子市		銚子市			銚子市	
	旧・八日市場市		旧・八日市場市		○(匝瑳市)	匝瑳市	☆
	旧・野栄町		旧・野栄町		○(匝瑳市)		
	旧・山田町		※ 旧・山田町		△(香取市)		
			※ 東庄町	第1次から		※ 東庄町	第1次から
第3次 (5~10%未満)	計 1		計 0			計 1	
	※ 旧・光町	圏外へ				香取市	☆
合計	10		9			5	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における旭商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－５－３に示す。

表Ⅳ－５－３ 旭商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(旧・旭市)		平成18年(現・市町村区界)	
	市町村		市町村	
		平成18年 での変化		平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 3	計 1	計 1
		旧・旭市 ○(旭市)	旭市 ☆	
		旧・海上町 ○(旭市)		
		旧・千潟町 ○(旭市)		
第2次 (10～30%未満)	計 ※ 3	計 0	計 0	
	旧・八日市場市 △(匝瑳市)			
	旧・飯岡町 ○(旭市)			
	※ 旧・山田町 ×(香取市)			
第3次 (5～10%未満)	計 1	計 2	計 2	
	旧・野栄町 ○(匝瑳市)	匝瑳市 ☆		
		※ 東庄町 新規		
合計	7	3	3	
飲食	第1次 (30%以上)	計 4	計 1	計 1
		旧・旭市 ○(旭市)	旭市 ☆	
		旧・海上町 ○(旭市)		
		旧・飯岡町 ○(旭市)		
第2次 (10～30%未満)	計 4	計 2	計 2	
	旧・八日市場市 ○(匝瑳市)	匝瑳市 ☆		
	旧・野栄町 ○(匝瑳市)	東庄町		
	※ 旧・山田町 △(香取市)			
第3次 (5～10%未満)	計 1	計 2	計 2	
	銚子市	銚子市		
		※ 香取市 ☆		
合計	9	5	5	
贈答品	第1次 (30%以上)	計 ※ 5	計 1	計 1
		旧・八日市場市 △(匝瑳市)	旭市 ☆	
		旧・旭市 ○(旭市)		
		旧・海上町 ○(旭市)		
第2次 (10～30%未満)	計 4	計 3	計 3	
	銚子市	銚子市		
	旧・野栄町 ○(匝瑳市)	匝瑳市 ☆		
	旧・山田町 ×(香取市)	東庄町		
第3次 (5～10%未満)	計	計 0	計 0	
合計	9	4	4	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

## 6 市原商圏（準商業中心都市）

### (1) 商圏の概要

表IV-6-1 市原商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	1	82.3%	279,729	230,217	計	1	82.3%	279,729	230,217
	市原市		82.3%	279,729	230,217	市原市		82.3%	279,729	230,217
第2次 (10～30%未満)	計	1	10.2%	8,459	863	計	1	10.2%	8,459	863
	長柄町		10.2%	8,459	863	長柄町		10.2%	8,459	863
第3次 (5～10%未満)	計	2	5.6%	68,995	3,872	計	2	5.6%	68,995	3,872
	袖ヶ浦市		5.5%	59,298	3,261	袖ヶ浦市		5.5%	59,298	3,261
	長南町		6.3%	9,697	611	長南町		6.3%	9,697	611
合計		4	65.8%	357,183	234,952		4	65.8%	357,183	234,952

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

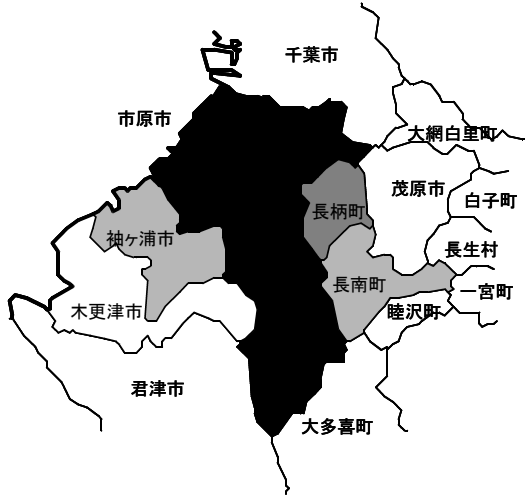
注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

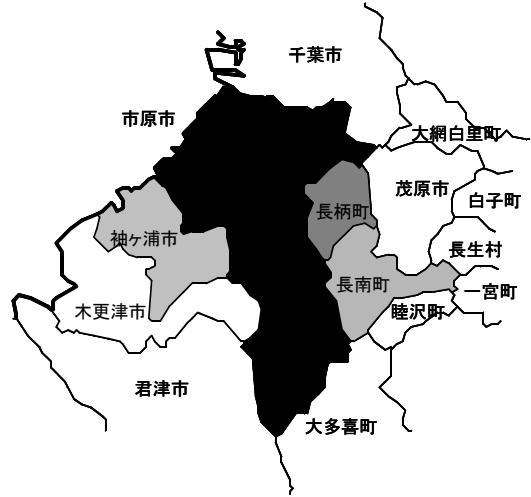
- 市原商圏は、千葉ブロックの南部を中心に君津ブロックの北部、長生ブロックの西部を取り込んだ2市2町から形成され、商圏人口は約36万人(市原市人口の約1.3倍)、商圏からの吸引人口は約23万人(同約84%)、商圏内吸引率は65.8%となっている。
- 第1次商圏は市原市1市で吸引率(地元購買率)は82.3%、第2次商圏は1町で吸引率は10.2%、第3次商圏は1市1町で吸引率の平均は5.6%となっている。

図IV-6-1 市原商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

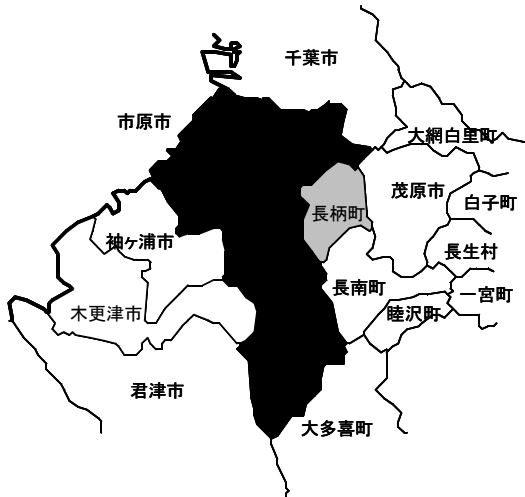
(衣料品)



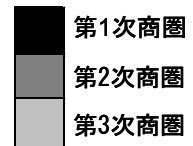
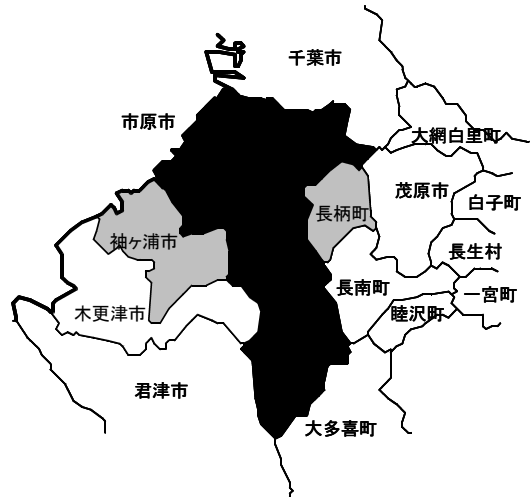
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



## (2) 旧市町村区界での前回調査との比較

### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時同様に市原市1市で変わらない。
- ・第2次商圏は、1市1町であったうち、1市が第3次商圏に移動したことから、1減して1町となった。
- ・第3次商圏は1町であったが、その1町が圏外に出たものの、第2次商圏から1市が入り、また、新たに1町が入ったことから、1増して1市1町となった。
- ・商圏全体では、4市町（2市2町）に変化はない。

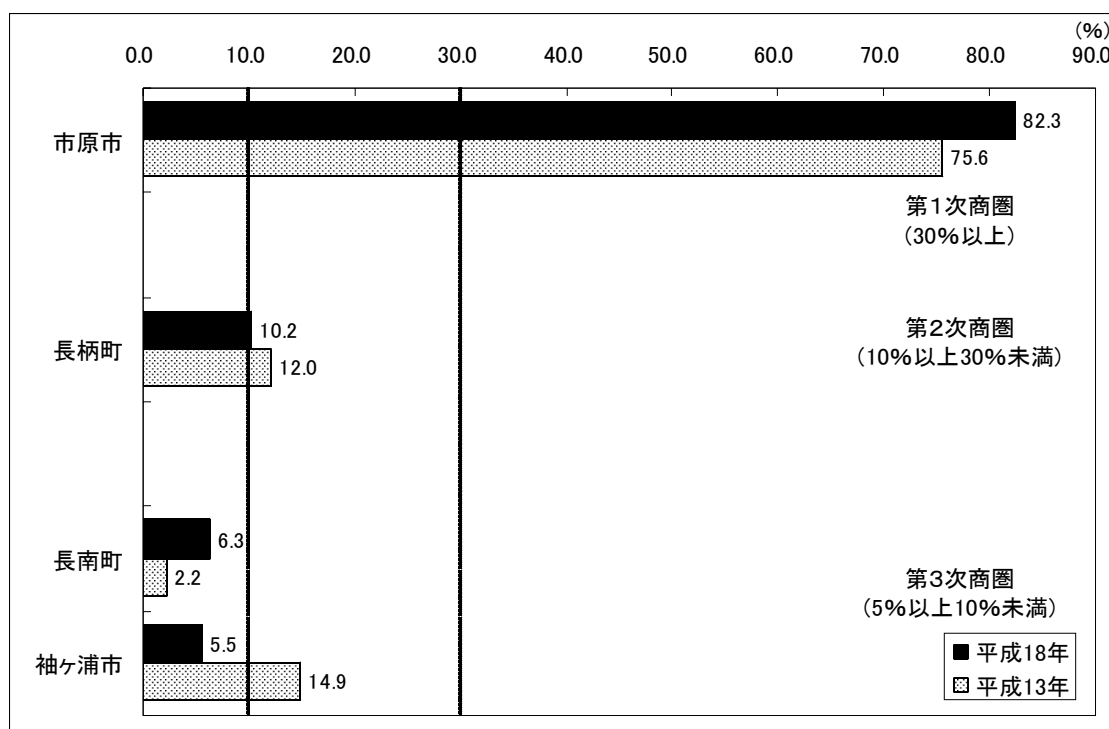
○商圏人口：前回調査時（358,778人）から減少して357,183人となった。（前回比▲0.4%）

○商圏内吸引率：前回調査時（61.8%）から上昇して65.8%となった。（前回比＋4ポイント）

○吸引人口：商圏人口は微減したものの吸引率が上昇したことから、前回調査時（221,766人）から増加して234,952人となった。（前回比＋5.9%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時（79.7%）から上昇して84.0%となった。（前回比＋5ポイント）

図IV-6-2 市原市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



### (3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数：第1次商圏、第2次商圏、第3次商圏のいずれでも市町村合併は発生しておらず、市町村合併による変化はない。

↓

(現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

○市町村合併による変化はなく、前記(2)項が現市町村区界での商圏の前回調査との比較となる。

### (4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における市原商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－5－2に示す。

表Ⅳ－6－2 市原商圏の市町村の変化（衣料品）

衣料品 商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 1 市原市		計 1 市原市			計 1 市原市	
第2次 (10～30%未満)	計 2 袖ヶ浦市 長柄町	第3次へ	計 1 長柄町			計 1 長柄町	
第3次 (5～10%未満)	計 1 大多喜町	圏外へ	計 2 袖ヶ浦市 長南町	第2次から 新規		計 2 袖ヶ浦市 長南町	第2次から 新規
合計	4		4			4	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における市原商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－6－3に示す。

表Ⅳ－6－3 市原商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(現・市町村区界) 市町村	
		平成18年 での変化		平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 1 市原市	計 1 市原市	計 1 市原市
	第2次 (10～30%未満)	計 1 長柄町	計 1 長柄町	計 1 長柄町
	第3次 (5～10%未満)	計 1 袖ヶ浦市	計 2 袖ヶ浦市 ※ 長南町 新規	計 2 袖ヶ浦市 長南町 新規
	合計	3	4	4
飲食	第1次 (30%以上)	計 1 市原市	計 1 市原市	計 1 市原市
	第2次 (10～30%未満)	計 1 ※ 袖ヶ浦市 圏外へ	計 0	計 0
	第3次 (5～10%未満)	計 1 長柄町	計 1 長柄町	計 1 長柄町
	合計	3	2	2
贈答品	第1次 (30%以上)	計 1 市原市	計 1 市原市	計 1 市原市
	第2次 (10～30%未満)	計 0	計 0	計 0
	第3次 (5～10%未満)	計 2 袖ヶ浦市 長柄町	計 2 袖ヶ浦市 長柄町	計 2 袖ヶ浦市 長柄町
	合計	3	3	3

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市



## 7 八千代商圏（準商業中心都市）

### (1) 商圏の概要

表IV-7-1 八千代商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	1	82.5%	182,178	150,297	計	1	82.5%	182,178	150,297
	八千代市		82.5%	182,178	150,297	八千代市		82.5%	182,178	150,297
第2次 (10~30%未満)	計	1	11.4%	171,381	19,537	計	1	11.4%	171,381	19,537
	佐倉市		11.4%	171,381	19,537	佐倉市		11.4%	171,381	19,537
第3次 (5~10%未満)	計	1	9.1%	930,388	84,665	計	1	9.1%	930,388	84,665
	千葉市		9.1%	930,388	84,665	千葉市		9.1%	930,388	84,665
合計		3	19.8%	1,283,947	254,500		3	19.8%	1,283,947	254,500

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

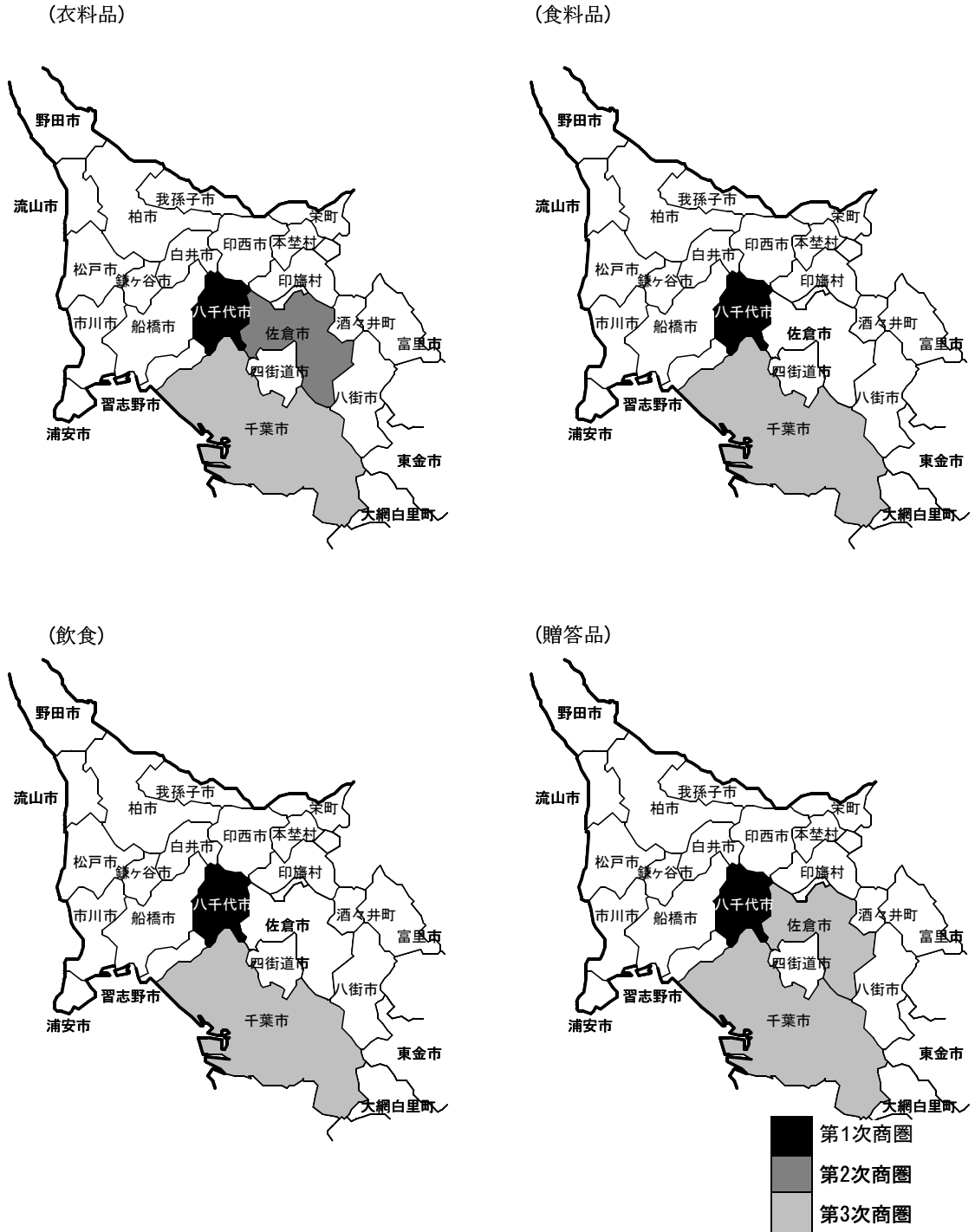
注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○八千代商圏は、千葉ブロックの北部を中心に印旛ブロックの南部を取り込んだ3市から形成され、商圏人口は約128万人(八千代市人口の約7.0倍)、商圏からの吸引人口は約25万人(同約140%)、商圏内吸引率は19.8%となっている。

○第1次商圏は八千代市1市で吸引率(地元購買率)は82.5%、第2次商圏は佐倉市1市で吸引率は11.4%、第3次商圏は千葉市1市で吸引率は9.1%となっている。

図IV-7-1 八千代商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）



## (2) 旧市町村区界での前回調査との比較

### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時と同様、八千代市のみで変わらない。
- ・第2次商圏は、前回調査時は該当市町村が無かったが、新たに1市（佐倉市）が入った。
- ・第3次商圏も、前回調査時は該当市町村がなかったが、新たに1市（千葉市）が入った。
- ・商圏全体では、前回調査では1市（八千代市）であったものが、2増して3市となった。

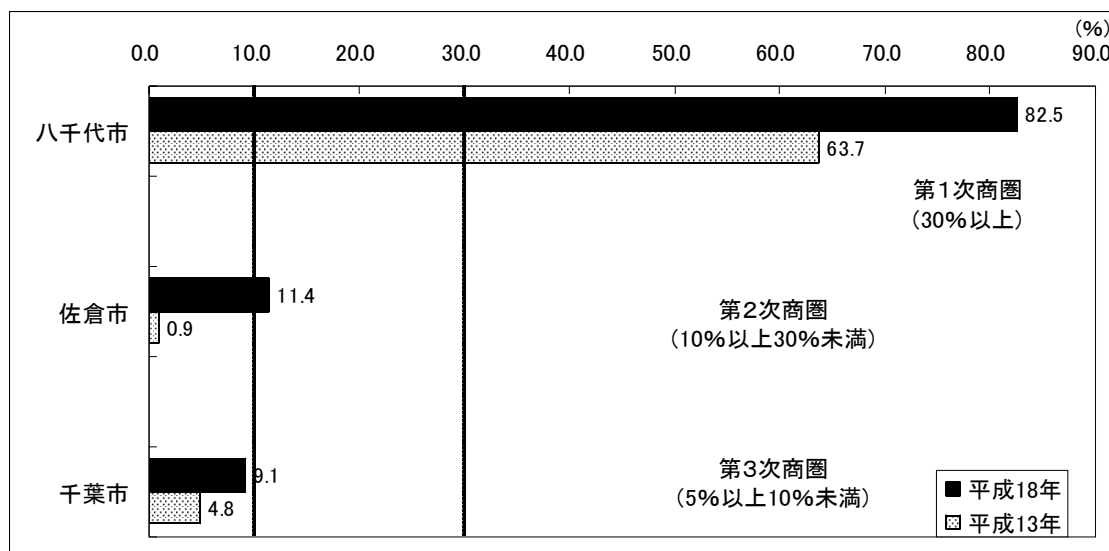
○商圏人口：前回調査時には八千代市は単独商圏都市であり、商圏人口は自市人口（171,624人）であったが、今回、新たに準商業中心都市として第1次・2次・3次商圏を形成し、その商圏人口は1,283,947人となっている。

○商圏内吸引率：前回調査時の単独商圏都市としての八千代市の地元購買率は63.7%であった。今回、新たに準商業中心都市として第1次・第2次・3次商圏を形成したが、第3次商圏に千葉市（商圏人口の72%を占める）が入っているため、商圏内吸引率は19.8%となっている。

○吸引人口：前回調査時の単独商圏都市としての八千代市の吸引人口は自市吸引人口（109,324人）であるが、今回、準商業中心都市としての商圏内吸引人口は254,500人となっている。

○吸引力：準商業中心都市としての吸引力は139.7%となっている。

図IV－7－2 八千代市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数：第1次商圏、第2次商圏、第3次商圏のいずれでも市町村合併は発生しておらず、市町村合併による変化はない。

↓

(現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

○市町村合併による変化はなく、前記(2)項が現市町村区界での商圏の前回調査との比較となる。

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における八千代商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-7-2に示す。

表IV-7-2 八千代商圏の市町村の変化（衣料品）

衣料品  商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 1 八千代市		計 1 八千代市			計 1 八千代市	
第2次 (10~30%未満)	計 0		計 1 ※ 佐倉市	新規		計 1 ※ 佐倉市	新規
第3次 (5~10%未満)	計 0		計 1 ※ 千葉市	新規		計 1 ※ 千葉市	新規
合計	1	19.8%	3			3	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における八千代商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-7-3に示す。

表IV-7-3 八千代商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 1 八千代市	計 1 八千代市	
	第2次 (10~30%未満)	計 0	計	
	第3次 (5~10%未満)	計 0	計 1 ※ 千葉市	新規
	合計	1	2	
飲食	第1次 (30%以上)	計 1 八千代市	計 1 八千代市	
	第2次 (10~30%未満)	計 0	計	
	第3次 (5~10%未満)	計 0	計 1 ※ 千葉市	新規
	合計	1	2	
贈答品	第1次 (30%以上)	計 1 八千代市	計 1 八千代市	
	第2次 (10~30%未満)	計 0	計 0	
	第3次 (5~10%未満)	計 0	計 2 ※ 千葉市 ※ 佐倉市	新規 新規
	合計	1	3	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

## 8 印西商圏（準商業中心都市）

### (1) 商圏の概要

表IV－8－1 印西商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	4	60.2%	135,663	81,641	計	4	60.2%	135,663	81,641
	印西市		77.6%	60,106	46,642	印西市		77.6%	60,106	46,642
	白井市		45.2%	54,102	24,454	白井市		45.2%	54,102	24,454
	印旛村		33.7%	12,823	4,321	印旛村		33.7%	12,823	4,321
	本埜村		72.1%	8,632	6,224	本埜村		72.1%	8,632	6,224
第2次 (10～30%未満)	計	0	-	-	-	計	0	-	-	-
第3次 (5～10%未満)	計	2	5.7%	71,740	4,113	計	1	5.8%	23,949	1,389
	栄町		5.8%	23,949	1,389	栄町		5.8%	23,949	1,389
	旧・沼南町		5.7%	47,791	2,724					
合計		6	41.3%	207,403	85,755		5	52.0%	159,612	83,030

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

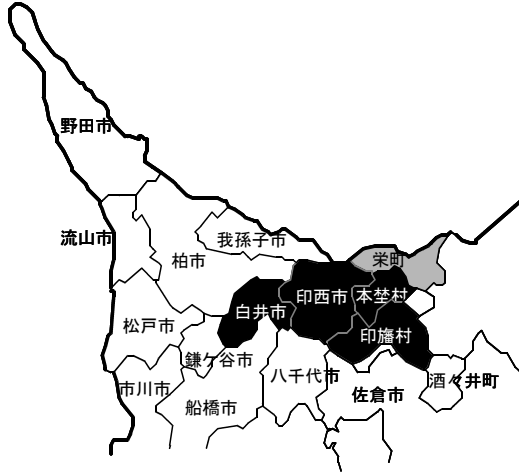
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○印西商圏は、印旛ブロックの西部に2市1町2村から形成され、商圏人口は約16万人(印西市人口の約2.7倍)、商圏からの吸引人口は約8万人(同約138%)、商圏内吸引率は52.0%となっている。

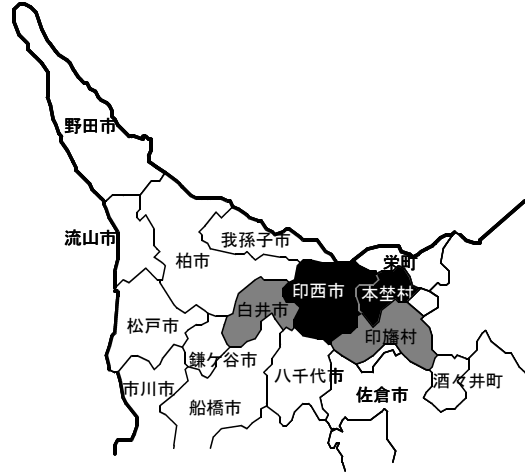
○第1次商圏は2市2村で吸引率の平均は60.2%、第2次商圏に該当する市町村はなく、第3次商圏は1町で吸引率は5.8%となっている。

図IV-8-1 印西商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

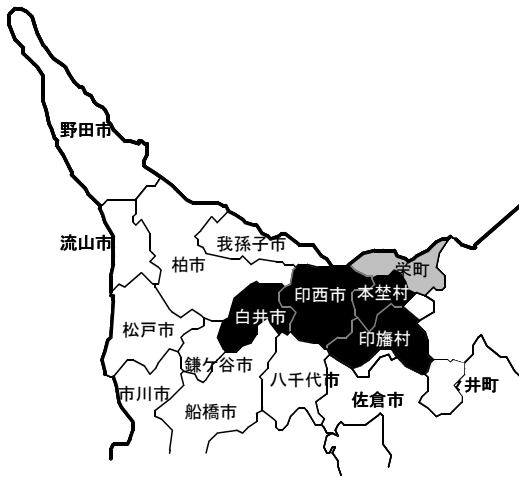
(衣料品)



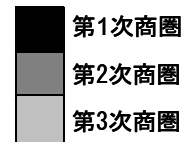
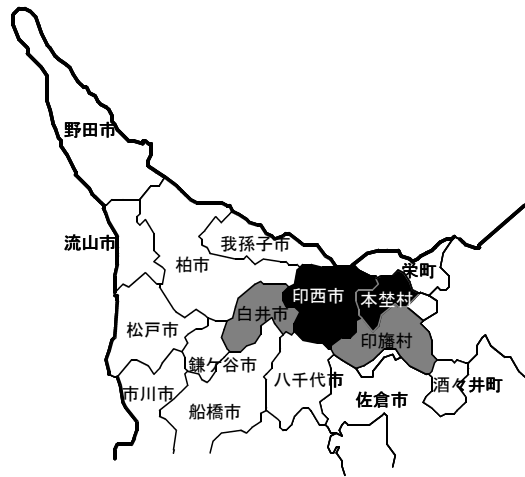
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



## (2) 旧市町村区界での前回調査との比較

### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、前回調査時は1市1村であったが、1市が第2次商圏から入り、1村が第3次商圏から入ったことから、2増して2市2村となった。
- ・第2次商圏は1市であったが、第1次商圏に入ったため、該当する市町村はなくなった。
- ・第3次商圏は1村であったが、その1村は第1次商圏に移動し、新たに2町が入ったことから、1増して2町となった。
- ・商圏全体では、4市村(2市2村)であったものが、2増して6市町村(2市2町2村)となった。

○商圏人口：前回調査時(131,446人)(注)から増加して207,403人となった。(前回比+57.8%)

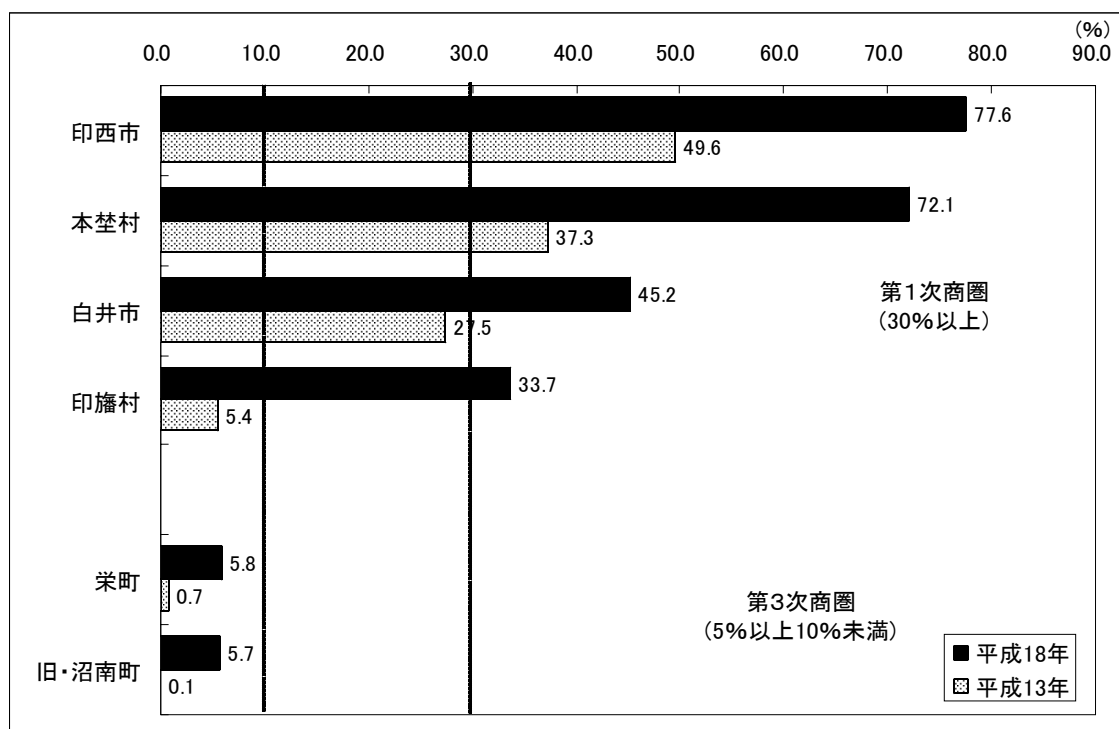
○商圏内吸引率：前回調査時(36.3%)(注)から上昇して41.3%となった。(前回比+5ポイント)

○吸引人口：商圏人口・吸引率がともに増加したことから、前回調査時(47,659人)(注)から増加して85,755人となった。(前回比+79.9%)

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時(78.8%)(注)から上昇して142.7%となった。(前回比+64ポイント)

(注) 前回調査時には印西市は地元購買率(49.6%)が60%未満であり準商業中心都市あるいは単独商圏都市ではなかったが、外部の1市1村から10%以上、1村から5%以上吸引していたことから参考値として計算した。

図IV-8-2 印西市の吸引状況の変化(旧市町村区界)





### (3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

#### ○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では2市2村であるが、新市町村区界においても同様である。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では該当する市町村はなく、新市町村区界でも同様である。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では2町であるが、1町が合併後（合併新市が）圏外に出たため、1減して1町となった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では6市町村（2市2町2村）であるが、新市町村区界では1減して5市町村（2市1町2村）となった。前回調査時の4市村（2市2村）との比較では1増となった。

↓

#### （現市町村区界での商圏の前回調査との比較）

- 商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（131,446人）から増加して159,612人となった。（前回比+21.4%）
- 商圏内吸引率：前回（36.3%）から上昇して52.0%となった。（前回比+16ポイント）
- 吸引人口：商圏人口・吸引率がともに増えたことから、前回（47,659人）から増加して83,030人となった。（前回比+74.2%）
- 吸引力：吸引人口が増加したことから、前回（78.8%）から上昇して138.1%となった。（前回比+59ポイント）

### (4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

- 衣料品購入における印西商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-8-2に示す。

表IV-8-2 印西商圏の市町村の変化（衣料品）

衣料品 商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(旧・市町村区界) 市町村			平成18年(現・市町村区界) 市町村	
	平成18年 での変化		平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	平成13年 からの 変化		
第1次 (30%以上)	計 2		計 4		計 4		
	印西市		印西市		印西市		
	本埜村		※ 白井市	第2次から	※ 白井市	第2次から	
			※ 印旛村	第3次から	※ 印旛村	第3次から	
			本埜村		本埜村		
第2次 (10~30%未満)	計 1		計 0		計 0		
	※ 白井市	第1次へ					
第3次 (5~10%未満)	計 1		計 2		計 1		
	※ 印旛村	第1次へ	※ 栄町	新規	※ 栄町	新規	
			※ 旧・沼南町	新規			
				×(柏市)			
合計	4		6		5		

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における印西商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－８－３に示す。

表Ⅳ－８－３ 印西商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(現・市町村区界)	
	市町村		市町村	
		平成18年 での変化		平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 3	計 2	
		※ 印西市	印西市	
		※ 白井市	本埜村	第2次へ
		本埜村		
第2次 (10～30%未満)	計 0	計 2		
		※ 白井市	第1次から	
		※ 印旛村	新規	
第3次 (5～10%未満)	計 0	計 0		
合計	3	4		
飲食	第1次 (30%以上)	計 2	計 4	
		印西市	印西市	
		本埜村	※ 白井市	第2次から
			※ 印旛村	新規
第2次 (10～30%未満)	計 1	計 0		
	※ 白井市			
第3次 (5～10%未満)	計 1	計 1		
	※ 我孫子市	※ 栄町	新規	
合計	4	5		
贈答品	第1次 (30%以上)	計 1	計 2	
		印西市	印西市	
			※ 本埜村	第2次から
第2次 (10～30%未満)	計 2	計 2		
	白井市	白井市		
	※ 本埜村	※ 印旛村	新規	
第3次 (5～10%未満)	計 0	計 0		
合計	3	4		

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市